

令和2年度 特色ある道徳教育推進校（心の教育推進キャンペーン実施校）
四街道市立和良比小学校

研究主題

考え、議論する道徳への転換をめざした指導方法の工夫

取組1 「考え、議論する」道徳授業の工夫のために

平成30年度から令和2年度の3年間、仮説に基づき手立てを立て、授業改善を行ってきた。その中で、成果や課題を得るとともに、授業モデルを共有し、全校で道徳授業の充実に取り組んだ。

工夫1 仮説に対する手立ての集積

仮説1 児童が自らの体験を想起し、実感を深めやすいように工夫すれば、児童は自分事として考えるだろう。

【授業の前に】

アンケートから、児童の実態と意識のずれを確認

視覚に訴えたり、図式化したりするなどの板書計画（書く内容も精選）の立案

【導入時に】

アンケートを提示し、自分の体験と本時のねらいを関連づける問いかけ

【展開時に】

動作化・役割演技・体験活動など実感を通して、思いや考えを深化させる。

【終末時に】

学習や自分の生活を振り返り、自己の変容や価値に対する考えをまとめさせ、発表などで比較させることで深く価値にふれるよう促す。

仮説2 話し合いの方法を工夫すれば、児童が考えを伝え合い、多面的・多角的に考えを広げることができるだろう。

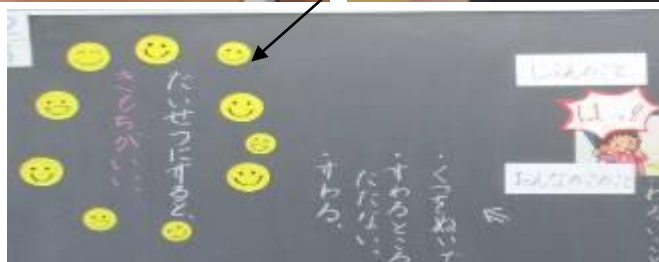
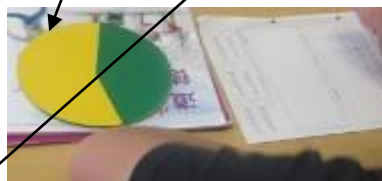
話し合いの形態を選択（ペア・グループ・全体等）



付箋を用いたり、思考ツールを用いたりして、考えを可視化



ネームプレート、表情マーク、心情メーター等を用いてそれぞれの考えの共有



工夫2 授業モデルの共有

導入 本時で話し合うべきテーマ（道徳的価値に迫るための学習課題）の提示

- ・あらかじめ事前アンケート等で内容項目にかかわる児童の意識を把握しておき、教材や実態とのずれからテーマを設定し、導入時に提示する。

展開 様々な考えにふれることで思考を再構築

- ・ワークシートを活用し、自分の考えをもたせる。（工夫3）
- ・ペア・グループ等の小グループで話し合い、友達の視点について理解する。
- ・互いの気づきを共有し、問い返しやゆさぶる発問、なぜそう思うのかという理由を問う深める発問により考えを再構築する。

- ・全体で話し合うことにより、友達と自分の意見を比較考察することから、多角的・多面的な考えに触れ、一人一人の思いや考えを見直し深める。

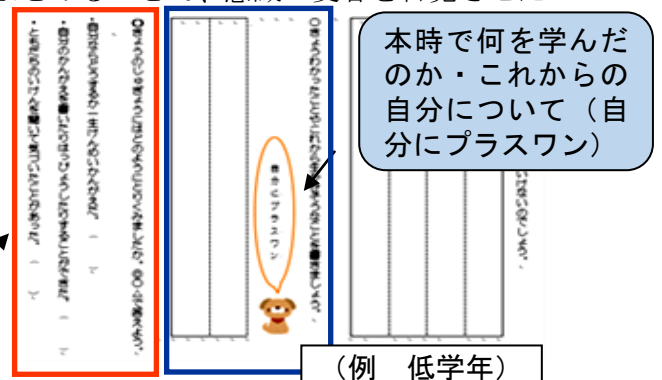
終末振り返りの時間を確保

- ・授業で思ったことや感じたことを自分の言葉でまとめることで、意識の変容を自覚させたり、自らの生き方について考えさせたりする。

工夫3 ワークシートの工夫

- 低・中・高の実態に合わせたワークシートの設定
 - ・児童の学びの方向性を明確にし、焦点化させることができる。
- 2年間を通し、ファイリングすることで、自分を振り返る手立てとする。

各学年の実態に合わせた振り返り項目の設定



(例 低学年)

取組2 学校教育全体を通した道徳教育の充実

校内クリーン作戦

- 高学年を中心に、朝校外の清掃活動を実施。(通年)



縦割り活動の充実

- 縦割り遊び・掃除・レクを通して各学年の関わりをもつ。



いじめ撲滅キャンペーン

- いじめ防止アンケート、人権標語づくりの実施。



主な成果と課題

- 教師が指導観を明確にし、本時のねらいをしばらく道徳授業に臨むことで、学習の焦点化を図ることができた。そのことにより、教材に対して一人一人が思いや考えをもつことができ、話し合いが活発に行われ、道徳的価値について考えを深めることができた。
- 道徳教育全体計画を見直すことにより、教科や特別活動で培うことのできる「協力」「勤労」「感謝」などを意識して指導することができた。
- 授業モデルを意識することで、学習形態や思考ツールの利用などを優先する傾向があったので、学習指導要領をよく理解し、道徳的価値に迫る授業づくりを行う必要がある。
- 考えを深め、話し合いを充実させるために、教材を通した指導観を明確にもち適切な指導を行うために、継続的・計画的な研修が今後も必要である。

授業実践事例

小学校 第2学年 道徳科学習指導案

令和2年9月18日(金)

- 1 主題名 友達の気持ちになって B(9)友情、信頼 (県の視点「支え合う喜び」)
- 2 ねらいと教材
 - (1) ねらい

友達の気持ちを考えることの大切さに気付き、話し合いを通して友達と仲良くしたり、助け合ったりしようとする態度を育てる。

- (2) 教材「みほちゃんと、となりのせきのますだくん」
 出典「小学どうとく はばたこう明日へ」教育出版

3 主題設定の理由

(1) 価値について

本主題は、学習指導要領低学年B〔友情、信頼〕(9)「友達と仲よくし、助け合うこと。」をねらいとしている。この段階においては、幼児期の自己中心性から十分に脱しておらず、友達の立場を理解したり自分と異なる考えを受け入れたりすることが難しいことも少なくない。しかし、学級での生活を共にしながら友達のよさを感じるようになる。身近にいる友達と一緒に、仲よく活動することのよさや楽しさ、助け合うことの大切さを実感できるようにすることや、友達とけんかをして、友達の気持ちを考え、仲直りできるようにすることがよりよい人間関係を構築できることに気が付くことで価値に迫ることができる。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は、困っている友達に対してそっと手を差し伸べられる児童が多い。一方で、言葉遣いを考えたり、相手がどう感じるのかを考えずに行動したりする児童がいるのも現状である。よりよい生活をする上で友達との関係づくりが大切であるということに気付き、そのために相手目線でものごとを考えたり、相手の態度や表情から気持ちを慮ったりすることができるような児童を育てたい。

(3) 指導観

本題材を通し、思わずとった行動が相手を傷つけてしまうことに繋がるということを知り、相手の気持ちに寄り添う言葉や行動が必要であるということに話し合いを通して考えさせたい。相手の性格や状況、気持ちを考えずに行動してしまうことは、子どもたちの生活場面でも身近にあり得ることであり、二人の行動や気持ちを自分事としてとらえることができると考えられる。自分の思いを大切にしながらも、相手を傷つけずに上手に自分の思いや考えを伝えることや、相手の気持ちに寄り添って話を聞くことでよりよい人間関係を築いていけることに気付かせていきたい。

4 展開

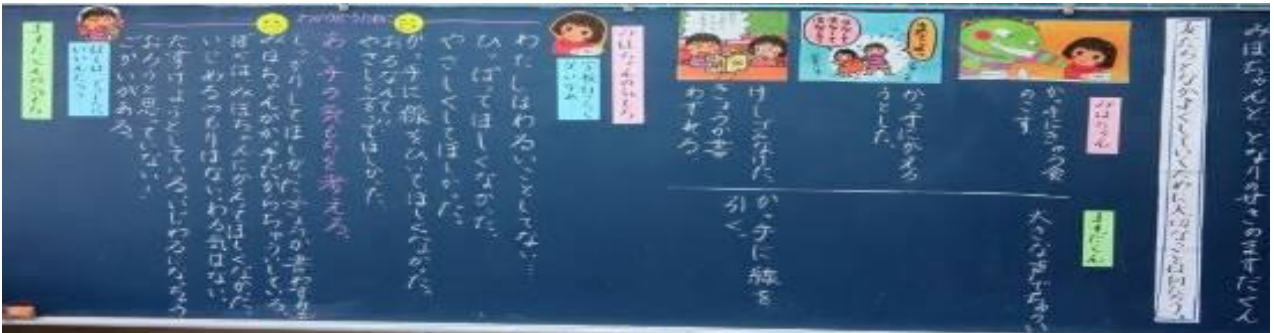
過程	学習活動と主な発問	予想される反応	指導上の留意点 評価(☆)
導入 (5)	<p>1 本題に直結するテーマから、考える視点を共有する。</p> <p>○友達と仲よく過ごすためにはどうしたらよいでしょうか。</p> <p>○けんかをしたことはありますか。</p> <p>○仲よくするための方法をとっているのになぜだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・優しくする。 ・助けてあげる。 ・一緒に遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分かっていることが生活経験ではそれらができていない。ずれに気付かせることで、問題解決的な意識をもたせる。
展開 (30)	<p>2 資料「みほちゃんと、となりのせきのますだくん」を読み、考え話し合う。</p> <p>○みほちゃんの困ったところは何だろう。</p> <p>○ますだくんの困ったところは何だろう。</p> <p>3 二人が仲よくするためにどうしたらよいかを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・給食を残すところ。 ・教科書を忘れるところ。 ・言い方が怖い ・少し乱暴 ・みほちゃんの気持ちを考えしていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2人の性格や気持ちが違うということを確認する。 ・それぞれの意見に対し、相手側はどう感じたか、互いに伝え合う。そうすることでお互い

	<p>○二人はどんなことを思っていたのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どちらかの立場になって相手に対しての気持ちをワークシートに書き全体で伝え合う。 ・共感できる立場に分かれて話し合う。 <p>◎二人はどうしていけば仲よくできるのでしょうか。</p>	<p>〈みほちゃんの気持ち〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・強く言ったらこわいと思う。 ・大きな声では嫌。 ・勝手に机のじん地を広げないで。 <p>〈ますだくんの気持ち〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教えようと思ったんだよ。 ・もう少ししっかりしてほしい。 ・気持ちを考えることが大切。 ・気持ちを伝えることが大切。 	<p>に相手の立場に立って考えることが大切であることに気付かせる。</p>
終末 (10)	4 友達となかよく生活するために、自分だったらどんなことをしていくかワークシートに書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことだけではなく、相手の気持ちも考えていきたい。 ・これからも友達を大切にしていきたい。 ・仲よくしていくために、相手の気持ちを考えたい。 	<p>☆友達の気持ちになって考えるために大切なこと（態度・行動）ついて、自分との関わりで、多面的・多角的に考えていたか。（ワークシート等）</p>

5 他の教育活動との関連

- ・国語科の「うれくなる言葉」の学習と関連付けて、友達に寄り添った言葉がけができるように折に触れて声をかける。
- ・体育科の「鉄棒遊び」の学習と関連付けて、順番を守ったり、譲ったりするなどして仲よく学習ができるように声をかける。

6 授業の様子



話し合いを重ねていくと、どちらの気持ちもわかってきたな……。真ん中に移動しよう。

話し合いの様子 みほちゃん派(み) ますだくん派(ま)

- ①(み) ますだくんがちゅういして嫌だ。
- ②(ま) だってみほちゃん勝手なことしてる。
- ③(み) でもそんなに怒ることないのに・・・やさしくしてよ。
- ④(ま) いじめているつもりはないよ。
- ⑤(み) 思っていることはいっぱいあったんだね。相手に伝わっている？
- ⑥(ま) いらない！
- ⑦(み) どうしたらよかったのかな。
- ⑧(ま) 人の気持ちを考える。
- ⑨(み) 「そういう気持ちがあったんだ」と思えば仲よくなれる。